

(令四文後)

小論文

- ・問題は1～10ページである。
- ・下書き用紙は中に2枚入っている。

注意 解答は答案用紙に縦書きで記入しなさい。

小論文 二〇〇点

次の文章は、佐藤直樹『創発の生命学―生命が1ギガバイトから抜け出すための30章―』の一節である(ただし、一部に変更と省略がある)。これを読んで、あとの問一〜三に答えなさい。

著作権保護の観点から、問題は掲載していません。

著作権保護の観点から、問題は掲載していません。

著作権保護の観点から、問題は掲載していません。

著作権保護の観点から、問題は掲載していません。

著作権保護の観点から、問題は掲載していません。

著作権保護の観点から、問題は掲載していません。

著作権保護の観点から、問題は掲載していません。

著作権保護の観点から、問題は掲載していません。

著作権保護の観点から、問題は掲載していません。

問一 傍線部①「分子生物学さえあれば、生物の学問は何でもわかるのだろうか」という問いに対する著者の答えとその論拠を、三〇〇字以内で説明しなさい。(配点四〇点)

問二 傍線部②「このようなシステマ的理解があれば、生物のことは何でもわかるのだろうか」という問いに対する著者の答えとその論拠を、四〇〇字以内で説明しなさい。(配点六〇点)

問三 傍線部③「あるように著者は「生命を創発的に理解しようとしている」が、本文における「創発的」の意味を明らかにしたうえで、こうした立場に対するあなたの考えを、現時点であなたが思い描いている文学部での学びと関連させながら、八〇〇字以内で論述しなさい。(配点一〇〇点)